



WASEDA ALUMNI  
SINCE 1885

## 早稲田大学ウリ稲門会

〒105-0001

東京都港区虎ノ門5-1-5  
メトロシティ神谷町5階  
東京神谷町総合法律事務所内  
woori-tohmon@tkm-law.com

発行人：尹正淳

編集：編集委員会

## 第33号 INDEX

P1～3

2019年

秋の懇親会・奨学生賞授与式開催

- 尹正淳会長からのご挨拶
- 新奨学生自己紹介

活動報告あれこれ

- コリア三田会の招待を受けて

P6～7

姜徳相先生訪問記

活動報告あれこれ

- 韓国校友会72回定期総会並びに送年の夕べに参加して
- 忘年会&新年会

P8

在日OBゴルフ早慶戦報告

賛助金のお願い

編集後記

## 2019年 秋の懇親会・奨学生賞授与式開催



9月28日、母校南門前 懐かしの高田牧舎にて「ウリ稲門会 2019年秋の懇親会・奨学生証授与式」が開催されました。「納涼会」として親しまれてきた当会の恒例行事を、本年より衣替えいたしました。夏の暑さが10年ほど前から過酷を極め、長引くことも度重なり、そのために開催日がジリジリと秋に近づく中で、奨学生証授与式も兼ねることとなり、学生が大学に戻るのに合わせて日程を選ばずと9月末が定例となりました。その実態に合わせて今回より名称を「秋の懇親会」にあらためることとしたのです。

当日は意欲的な三部構成。第一部は弁護士 殷勇基学兄に「韓国最高裁の徴用工判決について」ご教示いただく講演会です。殷学兄は、書籍「徴用工裁判と日韓請求権協定：韓国大法院判決を読み解く」（現代人文社）の共著者でもあり、かねてより本問題に精力的に取り組んでこられました。2018年「春の懇親会」に続き2度目のご登壇です。判断し租借吟味するための情報が提供されることなく、一方的なバッシングが続く環境下、大変に勉強になった1時間でした。詳しくは開設なった当会のホームページをご覧ください。（<https://www.uritomon.org>から“会員記事”を選択）

続く第二部は奨学生証授与式。第5期である今回から、2名増やして5名の学生を選抜することとなりました。親族の結婚式に参加するため韓国に渡航していた女子学生を除く4人が出席し（欠席せざるを得なかった学生の奨学生証授与式は事前に同会場でも実施済み）、前途を期待させる澆刺とした様子を披露してくれました。

「秋の懇親会」と名称を変えたにも関わらず、当日は半袖姿もチラホラ…。第三部が始まる頃には良い塩梅に喉が潤いておりました。尹正淳会長の開会挨拶（別掲）で幕を開け、続いて母校からの来賓 関口八州男所沢総合事務センター事務長からご挨拶をいただきました。その後、金君夫顧問に乾杯のご発声をいただき、懇親会が始まります。

ピッツェリアとなつて今に至り、各世代の記憶にある高田牧舎で、和やかに話の花が咲き、酒もすすみます。途中、柳宇徹副理事長が、当会ホームページの開設についてプロジェクターで映し出しながら報告すると、あちらこちらから「画期的だ」と称賛の声。皆さん、ぜひともアクセスしてください。

固かった第二部とは様相が打って変わり、あらためて新奨学生が自己紹介するに際して、緩やかに上がっていた会場の温度はピークに達します。コリア三田会の玄東實顧問のスピーチは相変わらずユーモアたっぷり、在日OBゴルフ早慶戦にようやく雪辱果たした安昌煥副会長がそれに応戦します。名古屋から久しぶりに参加して下さった車剛一学兄にスピーチをいただき、これからを期待する学兄の紹介を兼ねた崔相敦副会長の“謎のクイズ大会”を経て、おなじみ関口事務長リードによる校歌斉唱とエール交換、3時間以上にわたった楽しい夜も残念ながらお開きとなります。

名称を変更して心機一転、盛会でした。

編集部／朴魯善



## 尹正淳会長からのご挨拶

アンニョンハシムニカ

皆さん、お元気ですか？今年の夏は大変暑かったですね。こうして皆さんの元気な顔を拝見して、大変うれしく思います。

秋の懇親会兼奨学生証授与式にご参加いただき誠にありがとうございます。

奨学生も5期になりました。昨年、二人のOBの方から多額の寄付があり、従来3名であった奨学生を今年から5名に増やすことができました。大学当局からも真面目で意欲に満ちた熱心な学生を選考することができたと聞いておりましたが、今日実際にお会いしてその通りだなと実感しております。

早稲田大学ウリ稲門会もそのルーツをたどれば、100年以上の歴史を遡ります。植民地の時代から、解放、そして分断、そして21世紀の今日、私たちを取り巻く環境は極めて激変いたしました。

私が学生時代を過ごしたのは、1968年から1972年ですので、今から半世紀前のことになります。在日コリアンを取り巻く環境も変わりました。50年前は明らかに就職差別がありました。ですから我々は当初から日本の企業に就職しようとすら考えませんでした。そのことを口実に勉強もあまりしませんでした。ただ、日本各地から来た在日同胞学生らとの交流など学生生活は大変楽しかった思い出であります。また、当時は学生運動全盛期で授業も休講が多かったですね。試験の代わりにレポートを提出して単位をもらう。そんな時代でした。今はそのような、あまり勉強しない学生は卒業できないくらい、厳しいようですね。

私の悔いは学生時代にもっと勉強しておけばよかったな。ということでした。

新しい奨学生の皆さん、是非一生懸命勉強してください。努力は人を裏切らないという言葉があります。ましてや、今は能力次第で多くの門戸が開かれているのではないのでしょうか？未来に向けて、大きな夢をもって自分の人生の道を切り開いていただきたいと思います。

今日は66年に理工学部機械科を卒業されました車剛一先輩が名古屋からご参加いただきました。大変ありがとうございます。お会いするのは十数年ぶりかと思います。それから、車先輩の同期生、66年理工学部機械科を卒業された小西雄一郎さんにご参加いただきました。日本の方ですが、現在の全羅南道海南という、半島の最南端で生まれ3歳までいらっしゃったそうです。お父様が松旨面（ソンジミョン）於蘭（オラン）里にある尋常小学校の校長をされていたそうで、その小学校は於蘭鎮（オランジン）初等学校として現在も残っています。当時の記憶はほとんどないそうですが、ご自身の生まれ故郷ということでも大変な愛着をもって、現在も行き来されているそうです。

話すとは長くなるのですが、1597年のいわゆる文禄・慶長の役の時に李舜臣将軍が大活躍するわけですが、その時日本軍の密偵のような役割を果たした女性がいて、日本水軍の情報を李舜臣将軍側に伝えることにより、13隻の船で多数の豊臣水軍を破ったとされています（鳴梁大捷）。その情報を伝達した於蘭（オラン）という女性は身を投げて自殺してしまうのです。そこでその土地の人である朴スンヨンという方がその地に碑と於蘭（オラン）像を立てたのですが、その費用を雄一郎、健二郎ご兄弟が寄付をしたとのことでした。

昨今韓日関係が大変ぎくしゃくしておりますが、こうした市民レベルの交流が我々の知らないところで行われている。こうした交流の積み重ねが韓日間の友好親善につながるのではないかと思います。

昨年に続き講演を引き受けていただいた殷勇基学兄に感謝申し上げます。

この徴用工判決についてはここ数か月毎日のように日本のテレビで朝から晩まで韓国をバッシングが続いておりました。ここにきて多少収まったように見受けられます。

韓日条約は、そもそも1910年の日本による韓国併合は合法か、違法かという前提においても認識が一致しない中、米国の圧力を受け、そうした争点をすべて棚上げして結ばれた条約でありました。

ですから、当初より完全にかつ最終的に解決されていない中、締結された条約であるわけです。言葉の上だけの「完全かつ最終的」ではなく、実質的な解決のためにも両国政府が歴史に謙虚に向かい合い、真摯な協議をすることにより、被害者の救済という視点で問題解決に努めていただきたいと思います。いずれにしても、国は引越すわけにはありません。韓国、日本とは永遠に隣人であり続けるわけがあります。

さて今回の会場は高田牧舎を選びました。高田牧舎は1905年ミルクホールとして創業したそうです。私の学生時代は洋食レストランでありました。学生時代毎日のようにこの前の通りを通るのですが、いつも窓から中を見て裕福そうな人が食事をしているのを見たりしていました。

私は貧乏学生でありましたので、私がいつも利用するのはこの近くにあった「おふくろ」という定食屋さんか、学生食堂で、高田牧舎には学生時代一度も入ったことがありませんでした。以前から是非一度、利用したいと思っておりましたので、今回ここで食事できることが本当にうれしく思います。

今日は、大いに食べて、飲んで、語り、そして先輩後輩の親睦の輪を深めていただきたいと思います。そうしております。





尹正淳会長と新奨学生（左から朴紗奈さん、徐原さん、高星佑さん、林炯均さん）



## 活動報告あれこれ

### 11月15日 コリア三田会の招待を受け

11月15日、コリア三田会からお招きを受け、尹正淳会長、朴淳澈副会長二名が同会総会に出席してまいりました。会場は銀座6丁目にある交詢社、2004年に建て替えられた近代的な商業ビルの9階。交詢社は福沢諭吉が提唱して1880年に設立された日本最古の社交倶楽部とのことで、会場に入った途端に天井がズンと高く、重厚な内装が倶楽部の歴史を感じさせました。

参加者は約40名。当会に比べると女性の参加者が多く、現役の学生（留学生を含む）が10名ほど参加しており、大変若々しく、華やかな雰囲気。早稲田も最近は都会からの入学者が多いとのことで、両校の校風の差は以前ほどにはないのかもしれませんが、それでもどこことなく大

学のカラーの違いというものを感じました。

お土産に「若さ血」というお酒をいただきました。春の6大学野球早慶戦に勝利した際に、このお酒で快く祝杯を上げたいと思います。



## 新奨学生

新奨学生のみなさん  
おめでとうございます

# 自己紹介

### 国際教養学部1年 朴紗奈

こんにちは。国際教養学部1年の朴紗奈（パク サナ）です。この度は第五期奨学生に選んでいただきありがとうございます。私は今年の秋からドイツのミュンヘン大学で1年間留学をすることが決まりました。ドイツでは沢山の学びを得て、自分をさらに成長させたいです。ドイツ語の勉強に励むことはもちろん、在日コリアンとして朝鮮語の勉強も惜しまず頑張ります。これからよろしくお願ひします！

### 商学部1年 高星佑

ウリ稲門会第5期奨学生で、早稲田大学 商学部 一年の高星佑（こう そんう）です。

2019年に9月に奨学生として選ばれ、入学当時よりも勉強に対して熱心に取り組むようになりました。奨学生に選んでいただいたおかげで、一人暮らしと学業を両立しやすくなりました。これから早稲田生として、そして、ウリ稲門会奨学生としての誇りをもって、勉強に勤んでいきたいと思ひます。

### 文学部1年 徐原

こんにちは。文学部1年の徐原（ソウ ウォン）です。この度は第五回奨学生に選んでいただき大変光栄に思ひます。私は韓国ソウルで生まれ、7歳で日本に来ました。両親ともに韓国人である私は今も家では韓国語で話しています。小中高校とずっと日本の教育を受けてきた私は、日韓が対立ではなく共存することだってできることを日々の生活で学びました。早稲田大学ではこれから自分がどんな形で日韓の架け橋になれるのか、その道を探そうと思ひます。

### 政治経済学部1年 林炯均

こんにちは。この度は奨学生に選んでいただき、ありがとうございます。ウリ稲門会奨学生5期生、政治経済学部の林炯均（イム ヒョンギユン）です。私は、日本で生まれ日本で育ったので、あまり韓国語を話せません。そのため、現在、韓国語を勉強しています。大学4年間の1つの目標が韓国語を流暢に話せるようになることなので、頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひします。

### 政治経済学部経済学科1年 宋政宣

はじめまして。政治経済学部経済学科1年生の宋政宣（ソン ミンシジョン）です。この度はウリ稲門会の奨学生に選んでいただきありがとうございます。私は韓国で生まれて日本で育ってきました。そのため韓国人と接する機会が少なかったのが今回奨学生に選ばれてそう言った機会が増えたことを嬉しく思ひます。これからどうぞよろしくお願ひします。





## 早稲田大学

第 17 代総長

## 田中愛治

新奨学生の皆さん、おめでとうございます。  
ウリ稲門会の今後の発展を期待しています。

〒 162-8644 東京都新宿区戸塚町 1-104 TEL : 03-3203-4141 (大代表)



## 早稲田大学韓国校友会

WASEDA UNIV. KOREA ALUMNI ASSN.

名誉会長 李 賢儀

#1710 Union Center 310 Gangnamdaero, Gangnam-gu, Seoul, Korea 06253  
TEL : 82-2-567-5325 / FAX : 82-2-567-5320  
E-mail: wasedakr1947@naver.com



## 早稲田大学韓国校友会

WASEDA UNIV. KOREA ALUMNI ASSN.

会長 尹 泳老

#1710 Union Center 310 Gangnamdaero, Gangnam-gu, Seoul, Korea 06253  
TEL : 82-2-567-5325 / FAX : 82-2-567-5320  
E-mail: wasedakr1947@naver.com



株式会社ミツマル



代表取締役 康村 久雄

本社 〒 544-0032 大阪市生野区中川西 2-14-19  
Tel: 06-6715-2617 (代) Fax: 06-6715-2169  
e-mail: h.yasumura@mitsumaru1.co.jp  
http://www.mitsumaru1.co.jp/

東大阪工場 〒 577-0836 東大阪市洪川町 3-1-38  
Tel: 06-6726-2101 (代) Fax: 06-6726-2161



代表取締役 康村 久雄

株式会社エムケーシー

〒 544-0032 大阪市生野区中川西 2-14-19  
TEL : 06-6717-5800 (代) / FAX : 06-6715-2169  
e-mail: h.yasumura@mitsumaru1.co.jp

【中部支部長】

## 車 剛一

— 転居しました —

〒 462-0021 名古屋市北区成願寺二丁目 9 番 42 号 3  
TEL : 052-911-9131

## 朴 平 造

〒 005-0016 札幌市南区真駒内南町 4-1-1-203  
TEL : 011-582-1160 / FAX : 011-582-1160



## 昭和ビジネス株式会社

URL : <http://sb-design.jp/>

代表取締役 金 基弘 (1975 年 商卒)

デザイン制作・印刷一式・Web サイト制作・動画制作・映像制作・インターネット広告

大阪本社 〒 530-0047 大阪市北区西天満 4-7-10  
昭和ビル 3F 32 号  
Tel: 06-6311-5011 Fax: 06-6311-5012

大阪北営業所 〒 530-0036 大阪市北区与力町 2-13  
Tel: 06-6585-0915 Fax: 06-6585-0916

# 平 和

金 振 爾

有限会社 青山恒産

## 金 明 煥

『民族日報』の使命 趙鏞寿氏の民族愛に学ぼう

趙鏞寿氏の足跡

1930年4月、慶南晋州生まれ。渡日後、明治大学編入学・中退。韓学同、民団などで活動後、1960年帰国。1961年2月、『民族日報』創刊。同年12月、朴正熙最高会議議長の指令で処刑。2008年1月、ソウル中央地方法院で無罪判決。

『民族日報』

◆4・19革命で噴出した民主化を推進 ◆民族の進路を示す  
◆不正腐敗を告発 ◆労働大衆の権益擁護 ◆祖国統一の推進

社団法人民族日報記念事業会日本会長 李春雄

〒 104-0061 東京都中央区銀座 7-12-4 友野本社ビル 5F 銀座不動産 (株)

**宝基商事 (株)**

代表取締役 梁 直基

〒 143-0023 東京都大田区山王 1-36-21  
TEL : 03-3775-0010 / FAX : 03-3775-9292**琴 栄吉**〒 153-0051 東京都目黒区上目黒 5-11-3  
TEL : 03-3710-6248**株式会社 メッセ**

代表取締役社長 金 君夫

〒 104-0061 東京都中央区銀座 3-10-9 KEC 銀座ビル 8F  
TEL : 03-6859-5225 (代表) / FAX : 03-6859-5220**株式会社 パラッツォ東京プラザ**

代表取締役 徐 東湖

〒 163-6026 東京都新宿区西新宿 6-8-1  
住友不動産新宿オークタワー 26階  
TEL : 03-5381-1808 (代表) / FAX : 03-5381-1807**(有) クレ・アート企画**

代表取締役 呉 世一

〒 121-0816 東京都足立区梅島 1-15-16  
TEL : 03-3840-3581 / FAX : 03-3840-9140  
携帯 : 090-3217-1350**株式会社 平和商店**

代表取締役 尹 正淳 (伊原)

〒 151-0066 東京都渋谷区西原 1-49-9  
TEL : 03-3466-8764 / 携帯 : 090-8173-7600  
MAIL : jsy18693@gmail.com**KECコトブキゴルフ**

代表取締役社長 安本 昌煥

寿商事株式会社

〒 110-0005 東京都台東区上野 3-21-11  
TEL : 03-3831-9123 / FAX : 03-3831-6126  
MOBILE : 090-3105-6547  
yasumoto\_32111@kotobukigolf.co.jp  
http://www.kotobukigolf.co.jp/**河 相 淳** (HA / SANGSOON)**HEATOPIA GLOBAL FUND**  
運用最高責任者〒 155-0032 東京都世田谷区代沢 2-13-13  
TEL : 080-7078-0419  
mail: sangsoonha@hotmail.com**都 星 学****日榮物産 株式会社**代表理事 李 起 夏  
支店長 이 기 하**東京支店**  
〒 111-0032 東京都台東区浅草 1-12-8  
大山ビル 5F  
Tel: 03-3845-8881 Fax: 03-3845-8885  
携帯 : 090-3907-0298/090-6562-0063**本社**  
SEOUL 特別市端寧區廳院洞 20-1  
Tel: 02-534-8881  
Fax: 02-532-5794  
Mobile: 010-7456-8188**東京神谷町綜合法律事務所**

弁護士 李 宇海

〒 105-0001 東京都港区虎ノ門 5-1-5  
メトロシティ 神谷町 5階  
TEL : 03-3433-7722 / FAX : 03-3433-7733**CENTURY 21**

山下 敦 代表取締役/宅地建物取引士

**株式会社 山一ハウス**  
国土交通大臣免許 (8) 第 3817 号  
(売買) TEL: 047-362-0021 FAX: 047-362-0063  
(賃貸) TEL: 047-364-2921 FAX: 047-364-2988  
URL: http://www.c21.co.jp/ E-mail: a-yama@c21.co.jp  
〒 271-0092 千葉県松戸市松戸 1276-1 ファミールスクエア松戸 101  
センチュリー 21 の加盟店は、全て独立・自営です。

姜徳相先生  
訪問記



崔紗華

12月9日、ウリ稲門会の先輩方にお誘いを受け、姜徳相先生のご自宅を訪問した。歴史家を目指している筆者にとっては、とても嬉しいお誘いであった。ここでは、姜徳相先生から伺ったお話し、その後そのお話を基に筆者なりに考えたことについて論じることとしたい。

姜徳相先生から伺ったお話し

姜徳相先生は、満二歳で朝鮮半島から渡日され、中学生の頃に祖国の解放を迎えたという。

祖国解放を迎える前には、「皇国少年」であろうとしたご経験もあるとのことだった。当時は、教育勅語、そして歴代の天皇はすべて暗唱するほどだったという。さらに、陸軍幼年学校への入学経験もありとのこと

であった。その後は、早稲田大学文学部に進学され、その頃は社会主義や中国革命に関心をお持ちになられ、中国史を研究されたという。「皇国少年」の御経験に鑑みれば、先生の思想的な大きな変化があったことも見てとれる。そのような思想の変化からも、若かりし頃の先生の様々な葛藤が垣間見える。2020年現在、87歳の先生は、現在も執筆活動をされている。生涯にわたって向学心を維持されている先生のお姿に、敬服した。

「皇国少年」としての御経験について

インタビューの中で、筆者が最も関心を抱いたのは、「皇国少年」であったという先生の御経験である。関心を抱いた理由は、「皇国少年」あるいは「皇国少女」であった人びとの経験を、改めて考え直す必要があると考えたからだ。「皇国少年」、「皇国少女」だった人々は、少なからず一度はその経験を非難されたことがあると考えられる。解放後、「親日派」の一掃を方針とした在日朝鮮人諸団体が存在したように、彼／彼女等の「皇国少年」、「皇国少女」としての経験が、民族反逆者あるいは無知などと揶揄されたことも想像に難くない。

しかし、「皇国少年」、「皇国少女」であった人びとが、解放後に経験した非難や揶揄こそ、問い直されるべきだと考える。なぜなら、彼／彼女等は植民地支配の犠牲者であると同時に、在日コリアンコミュニティにおいてさらなる非難に晒され、二重の苦しみを経験したと考えられるからだ。解放直後、民族意識が高揚した時代には、「親日」的だったか否かという物差しに基づいて、善悪の判断がなされてきた。「皇国少年」、「皇国少女」であろうとした人々にとっては、解放が喜びであると同時に、新たな苦しみの出発点でもあったのではないだろうか。

重要なのは、なぜ彼／彼女等が「皇国少年」、「皇国少女」であろうとしたのか、その要因を追求することである。2008年に出版された『在日一世の記憶』という書籍で、姜徳相先生は、「わたしが熱心な皇国少年であったのは、貧困と差別から何とかして抜け出したいという思

いがあったからだ」（小熊英二・姜尚中編、2008年、648頁）と述懐している。つまり、姜徳相先生にとっては「皇国少年」であることが生きる術だったのである。ここには、植民地支配の犠牲者であったことが如実に表れている。解放直後の民族意識が高揚した時代において、彼／彼女等が二重の苦しみについて声を上げることは容易ではなかったであろう。ましてや、それを共有することもできなかったであろう。そうした二重の苦しみを経験した彼／彼女等の声なき声に傾聴することも重要である。

ただし、筆者が戦争や植民地支配を直接経験していない三世であることも忘れてはならない。解放直後、民族意識が高揚した時代には、「親日」的か否かという二分法に基づいた考え方がゴールであり限界であった。科学技術に時代毎の限界があるように、考え方にも時代毎の限界がある。それゆえに、「皇国少年」、「皇国少女」であったことを非難してきた民族主義者たちを頭ごなしに批判することもできない。しかし、少なからず冷戦が終焉し、グローバル化が進む現代において、当時のような物差しを用いて「皇国少年」、「皇国少女」であった人々を非難すべきではない。

今回のインタビューで、姜徳相先生が「皇国少年」であった御経験については拝聴できたものの、解放後の在日コリアンコミュニティにおいて、その経験がいかに認識されてきたのかについては、聞くことができなかった。「皇国少年」、「皇国少女」であった在日コリアンの研究については、今後さらに進められるべきだと筆者は考えている。姜徳相先生から、また直接お話しを伺える日があればと切に思う。

《参考文献》

小熊英二・姜尚中編（2008）『在日一世の記憶』、集英社

姜徳相顧問のインタビュー動画の一部が、ホームページに掲載されています。アクセスしてみてください。  
<https://www.uritomon.org>の「写真・動画ギャラリー」です。



真ん中が崔紗華氏。博士課程を修了し、この春から同志社大学で教鞭を取る。

活動報告あれこれ

韓国校友会72回定期総会並びに送年の夕べに参加して

2019年12月4日（水）韓国校友会の総会がソウルで開催され、当会から尹正淳会長、河相淳顧問、李起夏副会長、柳宇徹副幹事長、金協一ソウル支部長ら8名が参加した。韓国校友会との交流は故安王錫元会長が2007年12月の総会に参加して始まり、爾来毎年相互交流を続け、友情を深め、信頼関係を築き上げてきた。

昨年までソウルロッテホテルを会場として行われてきたのだが、今回

はザクラシック500ペンタスホテルである。場所はソウルの東部の広津区、地下鉄2号線、7号線の建国大学前徒歩3分であろうか。地上に出ると交差点で角にロッテ百貨店があり、その隣に位置した真新しいホテルのCEO崔鍾文氏が挨拶に見えたのだが、彼は2000年政経卒、2003年アジア太平洋研究科卒の同窓生であった。

会場には第29代、30代の全国経済人連合会会長を務めた東亜製薬の創業者姜信浩氏が参席されていた。姜氏はソウル大学、ドイツフライブ

ルク大卒の医学博士で早稲田とは無縁であるが、どなたか家族に早稲田と縁のある方がいらっしゃるようで、その関係で来場されていたようだ。

宴終了後、同ホテル内のレストランで韓国校友会、大学関係者、校友会関係者そしてウリ稲門会関係者で毎年恒例の懇親会が行われた。大学の井上文人理事、校友会の萬代兎代表幹事、尹英老会長、李賢儀名誉会長、皆さん気取らない方々で、和気あいあいとした雰囲気の中、ざっくばらんで楽しく有意義な時間を過ごした。

早稲田大学へのアジアからの最初の留学生が朝鮮半島出身の洪奭鉉であること、その後多くの留学生が早稲田で学び、その後祖国に戻り政治、経済、学問、文学などの広範囲にわたり有為な人物を輩出したこと、韓国校友会が解放後、大韓民国政府樹立1年前の1947年に設立されたこと、ウリ同窓会（現ウリ稲門会）がそれから20年遅れて再建されたことなど、同窓会の歴史に萬代兎代表幹事は興味深く聞かれていたことが印象的であった。

活動報告あれこれ

忘年会&新年会

暖冬の今シーズン。なかでも暖かったなという記憶の残る2019年12月12日。当会に所縁のある新宿明月館で拡大幹事会兼忘年会が開かれました。会報「ウリ稲門会ニュース第31号」を読むと、18年の忘年会も同じ12月12日の明月館です。偶然の一致でしょうか、それとも忘年会はこの日と決まっているのでしょうか。

17年の忘年会より年齢制限が設けられています。50歳以上という暗黙のルールがあるのです。古参メンバーからすると馴染みの顔ばかり、居心地の良さは格別です。最近のウリ稲門会は奨学金制度の導入以来、待望の若手が増えてきました。それはそれでとても喜ばしいことなのですが、やはり世代の隔たりがつくる壁は、そう簡単に低くはなりません。たまには、言わなくてもわかるメンバーだけと飲みたくなるものです。

この日集まったのは尹正淳会長以下13人。尹会長は、紙を用意して



いつものようにきちんと挨拶を述べられました。しかし、その後「出し物」や「アトラクション」はありません。参加者全員がただただ、思いついたことを喜怒哀楽を隠そうとせず話して食べて飲む。今となってはきちんと一年を振り返ったのかどうかも定かではないものの、拡大幹事会ではありませんから、2020年の主要行事の方向性は酒が進まないうちに決めています。詳細が決まるごとに、会員の皆様にはご案内いたします。会長を歴任された顧問の方々のご参加が少なかったのは寂しいことでした。今年の忘年会も12月12日になるかは、先のこと過ぎてまだわかりませんが、お身体ご自愛いただき、是非ともまた顔を合わせましょう。

年が明けた2020年1月14日、少しは冬らしい寒さになったこの



▲ 挨拶、乾杯の音頭をとるウリ稲門会尹正淳会長  
中央より向かって右側、尹英老会長、萬代兎校友会代表幹事、一人おいて井上文人理事、左側李賢儀名誉会長、高橋良巳ソウル稲門会長  
12月4日（水）ソウル広津区にあるザクラシック500ペンタスホテルにて

日、ウリ稲門会幹事11人、弁護士になったばかりの若い会員が1人と現役学生10人が代々木に集まりました。幹事と卒業間もない若い会員や現役学生が意見交換する恒例の新年会です。会場はJR代々木駅西口真ん前の中華料理店、山水楼です。筆者にとっては学生時代以来、約30年ぶりとなります。ここはウリ稲門会の重鎮、姜徳相顧問が経営されているお店です。

階段で二階に上がると尹正淳会長以下、つい一か月前の忘年会でお会いしたばかりのおなじみの先輩方が10人ほど。それでもお会いできるのはうれしいことです。あいさつもそこそこに中華料理を頼ります。熱々でパリッとした揚げ春巻きが絶品です。

花咲く会話のなかで、幹事のほぼ全員が韓国映画「パラサイト」を観ていたことが判明します。にわかに映画評論が始まります。評価は二分していたような。批判的な意見のなかに「万引き家族に似ている」というのがありました。3日前のラグビー大学選手権で、早稲田が11年ぶりに優勝した喜びを爆発させる学兄もいて和やかに宴は進みます。

新年会が始まってから1時間ほどして留学生をまじえた現役学生、若手もそろい、OBとの交流を図ります。それぞれの自己紹介から始まります。特に留学生へは幹事から出身地を聞く質問が相次ぎました。若手からは、社会人になるにあたっての心構えなどの質問があり、幹事陣が丁寧に熱意をもってこたえます。話したいという熱意溢れる幹事陣からの一方的な長広舌になっていたような気もしますが、これまでのウリ稲門会にはない世代を超えた交流が実現しました。この新年会を起点に長く続くことを祈るばかりです。

次回集まるのは母校での春の懇親会でしょうか。若手の皆さん、またお会いできるのを心より願っております。

(編集部員)



## 在日OBゴルフ 早慶戦結果報告

9/26  
(木)

筑波カントリー  
クラブ



苦節五年、ついに早稲田が優勝のトロフィーを取り戻すことができました！

2019年9月26日、茨城県の筑波カントリークラブにて第五回目の「在日OBゴルフ早慶戦」が開催されました。慶応は5名、迎え撃つ我々早稲田からは9名が参加し、総勢14名で互いの母校の名誉をかけて、青空の下、白球を追いかけました。結果は、団体戦、個人戦共に早稲田が勝利！早稲田の上位スコア4名の合計が381。対する慶応の合計は397と、16ストロークもの大差をつけての団体優勝でした。個人戦は、早稲田同胞の松原泰男氏が88でホールアウトし、89で上がった慶応同胞の金 真厚氏がワンストロークで追いかけるという接戦でありました。

過去に何度も慶応の側からは、「優勝トロフィーの置き場所に困っているから、早く早稲田が持ち帰ってこないか？」などと、早稲田が慶応をその気にさせてあげているのも分からずに、嫌味たらしく言われていたのですが、敢えて抵抗することもせず、ひたすら在日早慶OB達の親睦をたかめるといふ崇高な理念のもとに、今までこの会を発展させてまいりました。しかし、もういいでしょう。第五回目となった今回をもって、早稲田はその

本領を發揮し、優勝杯を渡してもらおうと意を決したわけです。つまり、早稲田は今まで眠りから覚めていない獅子だったのです。ここで断言できることは、少なくとも次の4年間は優勝トロフィーが早稲田の側から手放されることはないという事です。

さて、今回も早慶から女性の参加者が各々一名ずつありました。張 浩美氏と光山香帆氏です。男性だけで平均年齢をとってみると、ゆうに60を超えてしまう中、若い女性陣が参加してくれることで、会に華が加わり、度を過ぎた言動を慎める会となりました。

成績発表を兼ねた二次会は、琴 栄吉顧問の紹介でJR西日暮里駅横「焼肉ことえん」で催され、早稲田からの9名は勝利の美酒に酔いしれました。そして、慶応からの5名も一緒に「都の西北」を歌ってくれました。

2020年も同じく秋季に開催する予定です。是非とも多くの参加者が集い、意義ある会にしていければと祈念しております。詳細については、追って報告させていただきます。

(文責 安 昌煥)

## 編集後記

先日、今シーズンの初滑りとばかり蔵王に行つてまいりました。蔵王は台湾の方々が大変な人気です。雪のないところの老若男女が、樹氷を見物したり、スキーやスノーボードを経験したり、温泉に浸かったりしに、大挙してやってきます。荷をおろした宿にも「台湾滑雪五日間御一行様」という団がいらっしゃいました。宿の人に聞いてみると、5年ほど前に台北・山形空港間の直行便が開通され、それに合わせて誘致に努力したのだそうです。

あちこち旅してみるとわかります。日本の観光業は各国からやって来るインバウンドさんたちが支えています。日本に来るのは「安い」から

だそうです。私たちはそのおこぼれに与っているのです。

宿の人が「1月後半でこんなに雪がないことは初めて」と嘆いていました。「もはや災害だ」って。少ないしひどい雪でした。これってセクシー？育休とるのはいいけれど、温暖化対策を取り仕切るのがあなたの仕事なのだから、実のあるところをお願いしたいものです。

新型コロナウィルスに喧しいこのご時世に、蔵王からインフルエンザA型ウィルスを持ち帰ってしまいました。熱が上がり、外出することもできず、だるくて集中力もないから、なんとなく手持ち無沙汰にガラガラと過ごしました。平日の日中に見ることもないからとつけていたテレ

ビは、ヒステリックで耐え難く消してしまいました。

新型の肺炎にかこつけて、なんだかうれしそうに排外的言辞を弄する人たちがいます。弁えていたいものです。私たちが対抗すべきはウィルスです。武漢加油！台湾の方々とはとにかく元気でした。

<編集部/朴魯善>



## ● 年会費 5000 円と賛助金のお願い

2017年からゆうちょ銀行の払込取扱票による送金手数料は会負担となりました。

また、一般の金融機関ATMからの送金もできます。

ATMからの送金時の支店名は「ぜ」から入力してください。

当会の運営はすべて皆さまのボランティア、年会費、賛助金で成り立っております。

皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

|      |                |
|------|----------------|
| 銀行名  | ゆうちょ銀行         |
| 支店名  | 019 (ゼロイチキュー)  |
| 預金科目 | 当座預金           |
| 口座番号 | 0037085        |
| 口座名義 | ワセダイガクウリトウモンカイ |

※送金名義は会が認識できる名義をお願いします。

ホームページが新装開設されました！  
password:uritomon

ウリ稲門会ウェブサイト

<https://www.uritomon.org>